

平成28年度

学 校 評 価 計 画 書

萩野台小学校

重点目標	共通 項目	具 体 的 取 組	主担当	現 状 (H 2 7 年度結果)	評 価 の 観 点	実現状況の 達成度判断基準	判定 基準	備 考
1. 学力向上 と 指導力向上		①基本的な学習ルールの定着	生徒 指導部	学習マナーの繰り返し指導を行ったことで、一人一人の学習に対する姿勢が良くなってきた。しかし、全児童が良くなってきたとはいえず、個人差が見られる。また、筆箱点検により筆記用具がそろい不要物を持ってこなくなった。今後もマナーの再確認をするとともに、生徒指導の3機能を生かした学習を進めていく。	学年に応じた学習ルールが身に付いている	A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	児童・保護者・ 教員 7月・12月
		②繰り返し指導による漢字力や計算力の定着 (朝学習・パワーアップタイム・宿題等による補充学習の継続的取組)	学習部	家庭学習強化週間や特設の補充練習時間などの全校統一テスト前の取組を重点的に行った効果は大きい。しかし、テストの難易度を上げた分、100点達成率はやや落ちてしまった。今後は、難易度を上げて達成率を維持できるように、取組を続けていく。合わせて、日頃から漢字を正しく使う習慣をつける。	当該学年の漢字や計算が身に付いている	目標値 低学年90点以上 中学年85点以上 高学年80点以上 A：目標値90%以上 B：目標値80%以上 C：目標値70%以上 D：目標値70%未満		児童・教員 7月・12月
	◎	③表現する力の育成 (書くこと)	学習部	ちょこっと作文では、テーマに合わせて時間内に書ける子が増えてきたが、評価テストなどでは、問題の条件を満たした書き方ができていない。また、問われていることに対して、言葉足らずな解答が多い。今後も条件を設定した作文に取り組みさせることにより、条件を満たした書き方ができるように指導していく。	自分なりの考えを書くことができる	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)		児童・教員 7月・12月
	◎	④表現する力の育成 (半具体物や言葉・数・式・図などを用いて、自分の考えを話す)	学習部	理由をつけて話すことは、少しずつ身についてきている。しかし、自信が持てず話せない子も多い。また、書くことと同様、内容が曖昧であったり足りなかったりすることがある。相手意識をもって、質問に対する的確な答え方を指導し、よい話し方、聴き方を広げていく。	自分の考えを根拠を示しながら話すことができる	A：80%以上の児童ができる B：70%以上の児童ができる C：60%以上の児童ができる D：60%未満の児童ができる		児童・保護者・ 教員 7月・12月
	◎	⑤家庭学習の充実と習慣化 (学年×10分の定着)	学習部	なかなか習慣が身につかない児童の指導が難しい。家庭学習強化週間や連絡帳チェックなどの全体の取組をさらに進める。また、保護者の協力もおおき学習時間の記入を行うなど習慣化を図っていく。自学の指導を行い、自分に合った実のある学習ができるようにする。	毎日、決められた時間の家庭学習を行っている	学年×10分として A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる		児童・保護者・ 教員 7月・12月
	◎	⑥読書量目標値の設定と到達促進の取り組み (児童委員会活動、教職員や司書による本の紹介、読書カード等)	学習部	高学年がよく本を読むようになり、新幹線読書の取組では100%の目標達成率である。しかし、読書に積極的ではない児童も多い。全体の取組を進めると同時に、クラスの中でその子に合った本を薦めたり、借りる時間をとったりするきめ細かい働きかけも行っていく。	読書量の目標値を設定し、到達のための手立てが工夫されている	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)		児童・教員 7月・12月
	◎	⑦授業における タイムマネジメント	学習部	授業づくり自己診断表で授業の流れを考えていることで、課題からまとめまでのタイムマネジメントはほぼ達成でき、ねらいとの適合性も意識している。今後は、ねらいにあった適用題、さらに振り返りまでを1時間のスタイルとして取り組む。	学習展開のまとめまで到達している	A：よくあてはまる (90%以上) B：だいたいあてはまる (80%以上) C：あまりあてはまらない (70%以上) D：まったくあてはまらない (70%未満)		教員 7月・12月

	◎	⑧校内研修を通した指導力向上 (外部指導者招聘, 校内研究会の活性化, 相互授業参観, 外部研修への積極的参加と還元等)	学習部	研究授業で得たことを共通理解し, アタックポイントとして日々の授業で共通実践してきた。個々の実践を全体に活かせるよう, 次の研究授業で成果を検証し, 積み上げができるようにしていく。相互授業参観においても研究の重点を意識し, 交流する。	校内研修を通して, 指導力向上に取り組んでいる	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	教員 7月・12月
	◎	⑨各種学力テスト結果を生かした学力向上の取組 (4月:国, 県, 町学力調査 12月:町学力調査)	学習部	学力テストの全体分析から年間計画の中に位置づけた重点や日常の取組を実践していく。さらに個人分析もしっかり行い, 個の力量をつかんだ指導を進めていく。学びのロードマップを作成し, 2回のPDCAサイクルと短期のPDCAサイクルを実践していく。	各種学力テスト結果を生かした学力向上の取組を積極的に行っている	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	
	◎	⑩情報機器を活用した授業実践	情報担当	機器の整備, 簡単に使える機能の紹介により, 集会や発表等での情報機器の使用が増えている。授業実践を推進していくために, 校内OJTを充実させ, 他の教職員への研修報告や実践報告等で活用していく。	情報機器を授業に活用している	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	
2. 豊かな心の育成と生徒指導の充実		①その場に合った正しい言葉づかい, 思いやる言葉づかいの育成	生徒指導部	少しずつではあるが思いやりの言葉が増えてきている。しかし, 場に合った正しい言葉遣いにはあまりつながらなかった。今後, それぞれの場でどのようなことを相手に伝えたらいいのか, そのためにはどのような言葉遣いがいいのかを繰り返し指導していく。また, 学校での指導を学校だけでなく家庭での協力をお願いする。	場に合った正しい言葉づかい, 思いやる言葉づかいがきちんとできている	A: 90%以上の児童ができる B: 80%以上の児童ができる C: 70%以上の児童ができる D: 70%未満の児童ができる	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。 児童・保護者・教員 7月・12月
	◎	②いじめのない温かい学級活動づくり	生徒指導部	人間関係作りを意識的に取り組んできたことで, 学級の中で自分がどんなことができるか, 人のために自分は何ができるのかを考えながら行動できる児童が少しずつ増えてきている。今後は個にも目を向け, 集団で関わりを持って学校生活を送れる力を育んでいく。	「人間関係づくり年間指導計画」を活用している	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	
	◎	③主体的に取り組む特別活動	特別活動担当	高学年に少しずつ学校全体を良くしようという意識が備わってきた。しかし, 主体的な行動を発揮する場が少ないため, 日常の主体的な行動にはあまりつながっていない。今後は異学年交流の場などを増やし, お互いに成長する姿を目指していく。	ねらいに沿って主体的によりよい学校生活を築こうとする態度の育成に努めている	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	
	◎	④別葉を活用し, 重点項目を意識した統合的な道徳	道徳担当	具体的な取組を提案したことで, 統合的な道徳授業を行うきっかけ作りをすることができた。また, ゲストティーチャー招聘によって授業の幅も広がった。さらに別葉の活用を推進していくためには, 年間指導計画の見直しや研修報告等を充実させていく必要がある。	重点項目を意識した道徳授業を行っている	A: よくあてはまる (90%以上) B: だいたいあてはまる (80%以上) C: あまりあてはまらない (70%以上) D: まったくあてはまらない (70%未満)	

		⑤個別の指導計画や教育支援計画の作成と有効活用	特別支援コーディネーター	学習に支援が必要な児童や人間関係づくりに支援が必要な児童についての共通理解は図られてきた。今後は、特別支援校内委員会を定期的に開いたり、専門的な立場からの助言をいただいたりすることで、個別の指導計画を生かしてよりきめ細かな対応をしていく。	個別の指導計画や教育支援計画を作成し、有効活用している	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）		教員 7月・12月
3. 体力向上と危機管理の育成	◎	①早寝・早起・朝食の定着	保健安全部	保護者向けの生活リズム講座、睡眠の大切さについて取り上げたすこやか集会の取組で、意識の高まりは感じられたが、習い事やテレビの視聴等でなかなか身につかない児童がいる。今後も、年間を通して規則正しい生活を意識できるよう、健康パワーアップ大作戦の取組や全体・個別指導を行っていく。また、家庭の協力が得られるよう、様々な場を通して保護者に啓発していく。	早寝早起朝食の習慣が身に付いている	A：90%以上の児童ができる B：80%以上の児童ができる C：70%以上の児童ができる D：70%未満の児童ができる	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	児童・保護者・教員 7月・12月
	◎	②体力・運動能力調査の実施・分析・取組	体育担当	スポチャレいしかわの取組は体育館に学年ごとの記録記入板を設置することで、挑戦する回数が増え、学校全体でスポチャレへの意欲が高まってきた。アジリティーブランでは各学級が工夫し、楽しみながら取り組むことができた。今後も児童の実態を把握しながら挑戦する意欲をかきたてる取組を継続していく。	体力・運動能力調査による課題の取組を行っている	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）		教員 7月・12月
	◎	③事故の未然防止に努めると共に、事故発生時における教職員相互の連携による迅速な組織的対応	保健安全部	マニュアルの徹底により基本的な防災意識や避難行動は身についてきた。しかし、実際の災害では、状況に応じた対応や判断力が強く求められる。今後は、時間帯や避難場所を変更するだけでなく、想定や避難ルート等を考えた避難計画を作成し実践していく。	安全指導の実施と事故発生時に教職員相互連携による迅速な対応を行っている	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）		児童・保護者・教員 7月・12月
4. 開かれた学校づくりの推進と家庭地域との連携		①教育活動の積極的公開と情報発信（学校便り、学年便り、学校ホームページ等）	教頭	ホームページの内容が充実してきた。学校・学年便りもしっかりと発信できた。保護者や地域の方がホームページ、学校便り等をよく見ていただいていることに感謝し、これからも積極的な発信に努める。来年度は、ホームページに学年だより・保健だより・給食だよりなどを掲載し、多方面の情報発信をしていく。	学校・学年便り、学校ホームページ等を通して学校情報を発信している	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）	A B合わせて80%未満の場合取組の検討・改善を行う。	保護者・教員 7月・12月
	◎	②地域と連携し、太鼓を中心とした地域の伝統文化の継承	教務部	今年度も指導者の方々の協力を得ながら3地区の太鼓を練習し、運動会・敬老会・ござっさい祭りで、5・6年生が発表した。今年度は、6年生が模造紙に楽譜を書いて5年生に教えることができた。子どもから子どもへ伝えていく、このような取組を今後も大切にしていく。	太鼓の継承を積極的に行っている	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）		教員 7月・12月
	◎	③幼保小及び小中連携の推進（情報交換による相互理解、園児・児童・生徒の交流活動の実施）	連携担当	幼保小の連携では、今年度、園児と児童と一緒に参加する行事が多かった。もう少し児童同士が交流できる機会を作っていく。小中連携では、様々な交流活動を行った。しかし、面談において期待に加え不安を訴える児童も多かった。今後は、アンケート調査を生かし、情報交換を綿密に行い、児童の不安を少しでも解消していく。	保育所・中学校の相互授業参観や情報交換会、児童と園児や生徒の交流活動を積極的に行っている	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%以上） C：あまりあてはまらない（70%以上） D：まったくあてはまらない（70%未満）		教員 7月・12月